

★現状について

被災状況としては、事業所や所在する地域によって地震の影響や被害がそれぞれ異なっており、被災状況や困難度合いが個別性を増している。

建物の被害もほとんどない事業所もあれば、建物被害はなくとも職員の自宅が被災しており、車中泊で仕事をしている職員によって運営できている事業所がある一方で、ほぼ通常通りの運営ができている事業所もある。

昨日（23日）の報告でも、支援物資を必要としている事業所はほとんどなく、必要なものも時間の経過とともに、変化している印象がある。

ライフラインについては、益城町や御船町の一部を除いてすべて復旧しており、今後、かなりのスピードで復旧していくのではないかと思う。

★第2段階のあり方について

事業所支援のため、5日間6人を1クールとし、5月末まで継続的に全国の仲間により熊本での支援が始まるが、多種多様に現場ニーズと「見極め」が重要という認識で一致している。

◆本日の活動報告（その2：訪問先の状況）

1. 小規模多機能あんず・・・益城小学校隣。いちご、リンゴ、バナナ等をお持ちした。水道がまだきていないため、利用者がお風呂に入ることができていない。明日ぐらいから清拭もしていこうかと思うが、洗濯もできないので悩んでいる。
2. 益城町保健福祉センター・・・住民の方の避難所。徳島県・和歌山県など行政職員が支援に入っている。また益城町役場が倒壊したために、役場機能をこのセンター内に置いている様子。多くの自衛隊員やボランティア等が入っている。とにかくごった返している雰囲気。
3. 小規模多機能ホームほたる・・・龍野福祉ふれあいセンターに小規模多機能型居宅介護の利用者すべて避難。登録者以外の高齢者も避難している。合計18名前後がお泊まり。町としてそろそろ避難所を閉鎖したい様子が伺え、おにぎりやパンしか配給されないようになってきた。別な避難所に最近までいたが、調理室があってもノロウイルス発生の危険性があるとされ、調理を許されない。また、トイレを汚すことなどにとっても厳しい住民もおられ、今の龍野福祉ふれあいセンターに移動してきた。
ここでは、特別に許可を貰い、スタッフが毎食調理をして食事を提供している。